

卒業論文

音楽に合わせた動画（プロモーションビデオ）の作成

福岡国際大学
国際コミュニケーション学部
デジタルメディア学科
金堀真紀

目次

第1章 はじめに	1
第2章 Premiere での動画（プロモーションビデオ）制作	2
2.1 なぜ動画を制作するのか	2
2.2 制作手順と内容	2
2.2.1 作品概要	2
2.2.2 制作手順	3
2.3 必要な技術と知識および機器	10
2.3.1 使用した機器・ソフトウェア	10
2.3.2 動画撮影・編集に必要な知識	11
第3章 作品の解説	12
3.1 「明日へ舞う桜（はな）」	12
第4章 まとめ	14
付録	15

第 1 章

はじめに

私たちの周りには、人の手によって作られた、様々なエンターテインメント作品が存在している。そのため、生まれた時から数え切れない程の「人を楽しませる作品」を目にする機会に恵まれている。特にパーソナルコンピュータやインターネットが急速に普及した近年、音楽作品や動画作品を、私たちは容易に見ることが可能になった。

視聴の場は、映画からテレビへ、そして今や万人が簡単にアクセスできる動画アップロードサイトに移ってきている。中でもアメリカで誕生した動画サイト「YouTube」は、英語以外に日本語を含め 18 カ国語に対応しているので世界中に利用者が広がり、投稿動画数が最も多いサイトになっている。また、日本で運営されている動画サイト「ニコニコ動画」は、株式会社ニワンゴが提供しているウェブサイトで、趣向を凝らした作品が数多く存在し、2008 年 2 月 25 日 23 時での動画数は 795,140 個、再生回数は 3,932,537,836 回にのぼっており、非常に人気の高いサイトであると言える。

この他にも、自分で管理運用しているホームページやブログなどに動画を貼り付けたり、「mixi」などのソーシャル・ネットワーキング・サービスの動画共有サービスを利用している者も多い。

また、制作においても、従来の「高価」で「複雑」な動画編集ソフトに代わり、インターネット上に動画編集が可能なフリーソフトが存在している。これらは、ダウンロードすれば特別に編集ソフトを購入することなく動画を作成できるため、パソコンとインターネットさえあれば、誰でも動画を編集することが可能である。また、高性能デジタルカメラの普及によって、多くの人々が写真や動画を撮影し、素材を簡単に用意できるような環境が整ってきた。

このように、今や限られた人ではなく、誰でも「簡単」に「無料」で作品を世界中に発信・受信でき、さらに「評価される」時代になったのである。

第 2 章

Premiere での動画（プロモーションビデオ）制作

2.1 なぜ動画を制作するのか

前述した通り、誰でも自分の作品を世界中に発信できる時代である。福岡国際大学のデジタルメディア学科エンターテイメントゼミに所属している私は、自分の作品を多くの人に見てもらうことが大切だと考えた。

そのために、まずは手描きのキャラクターアニメーションを作成し、動画でしか表現できない迫力やスピード感を実感する作業を行った。

次に、普段何気なく見ている景色も、カメラ一部を切り取る行為（撮影）を行ったり、編集次第でエンターテインメント作品に生まれ変わるということを学んだ。

以上のことから、より多くの人に受け入れられやすい動画作品とはどのようなものか、「人を楽しませる」「飽きさせない」表現は何かを追求することに決定した。

2.2 制作手順と内容

2.2.1 作品概要

作品のテーマは、「卒業」と「春」である。卒業は、誰でも経験することであり、多くの人から共感を得られることができるテーマだと考える。また、春は、別れの季節だが、出会いの季節でもある。特にこれから卒業する福岡国際大学の 4 年生のみんなに向けて『卒業しても希望を持ち、頑張って欲しい』という願いを込めた。

作品は、音楽と動画像からなるものである。そのため、同じゼミの光益聖人氏と組み、制作を行った。役割分担は以下の通りである。

* 役割分担

作詞・作曲：光益聖人

動画撮影・編集：金堀真紀

2.2.2 制作手順

今回の作品を制作した手順は以下のとおりである。

0．楽曲の作成（担当：光益聖人）

楽曲は共同制作者の光益聖人氏が担当した。楽曲が完成した後、その楽曲にあった動画の作成を行った。

1．映像のイメージを考える

完成した楽曲を聞いて、それに合うような風景を考える作業である。プロモーションビデオを作るため、動画は、自分の考えだけでなく、作曲者の意図を掴み、表現しなければならない。そのため、作品を作り始める前に、きちんと話し合いをして、お互いの意見を確認していった。また、ニコニコ動画で多くの動画作品を見て、表現方法を研究した。このようにして、イメージを膨らませていった。

2．映像の撮影・収集（素材を集める）

表現やイメージに合う映像を探し、撮影していく。それと同時に、インターネット上でフリーの素材も探した。人物は友人に出演を依頼したり、桜の花びらなどは自分で制作をした。また、後に編集する作業で様々な表現を可能にするため、事前に予定していない場面でも、直感的に良いと感じたら撮影するなどして、多くの素材を準備した方がよい。

3．撮影した映像を取り込む

撮影を行ったビデオカメラをパソコンに接続し、Premiere で素材を取り込む。ここで素材に分かりやすい名前をつけておけば後で確認したい時にすぐわかるので必ずしておくべきである。こうした少しの作業が、最後の編集作業で必ず役に立つ。

4．映像を編集する

Premiere での編集作業を行い、曲と動画を合わせる。この時、曲のノイズの処理や、歌詞のテロップなども全て編集する。

以下に Premiere での編集作業を示す。



図1 Premiere の編集画面

Premiere では4つのウィンドウ上で作業していく（図1参照）。

- 取り込んだ動画や素材が並ぶプロジェクト部分
- 動画に効果をつけるエフェクトコントロール部分
- 編集した画面が表示される部分
- 動画を組み立てるタイムライン部分

映像画面が小さいと感じる場合は、 を非表示にしても良い。 のウィンドウは、エフェクトを使用する時に使う。また、使用した機能と説明は次の通りである。

* 「カット」について

取り込んだ映像の一部を使いたい時や、動画を短縮したい時に使う機能である。同じ映像でも使用できる部分とできない部分があるので、この機能は便利である。また、容易に分割できるので、1つの映像をいくつかに分けて切って並べ、例えば、フレームを保持する部分としない部分を設定する『コマ送りの表現』も簡単にできる。

使い方は、まず のプロジェクトから使用する映像を選択し、 のタイムラインにドラッグ&ドロップした後、図2に示す赤い円部分をクリックし、映像の切りたい部分（ここでは青い点線円部分）の上でクリックする。すると図3の様に分割でき、映像を2つに分割することができる。

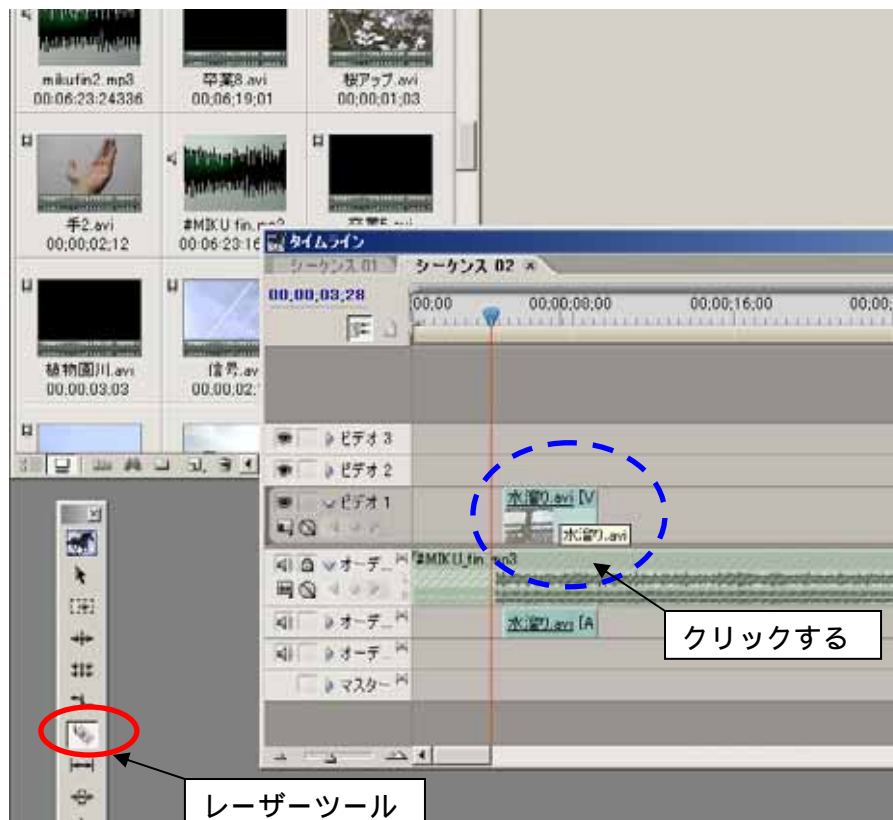


図2 動画分割時の画面

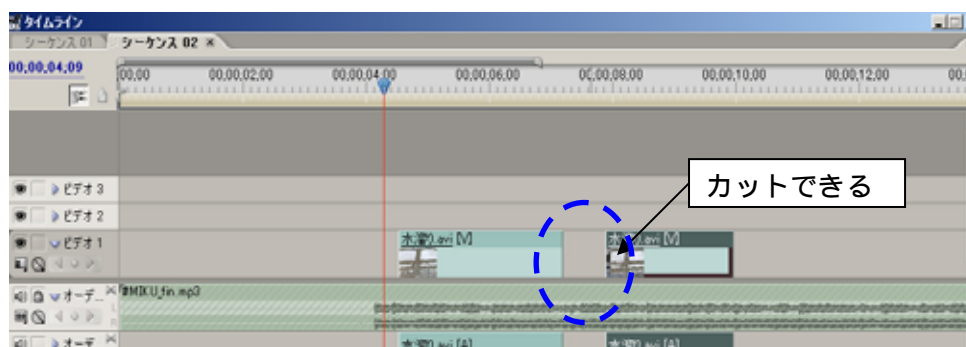


図3 分割結果

* 「速度」について

撮影した映像の表示速度を調整できる機能で、花びらが散るシーンや、電車からの風景を遅く表示させるのに使用した。同じ映像でも速度によっては全く違う印象になるため、イメージの幅を広げることが可能な便利な機能である。

使い方は、まず のタイムライン上の映像を右クリックし、「速度・デュレーション」を選択する（図4参照）。すると、数値が表示される（図5参照）。遅くする場合は、速度100%から小さくする。速度が遅くなると、その分の映像のバーが長くなる（図6参照）。長くなった分を分割するなどして、音楽に合わせて調節していった。

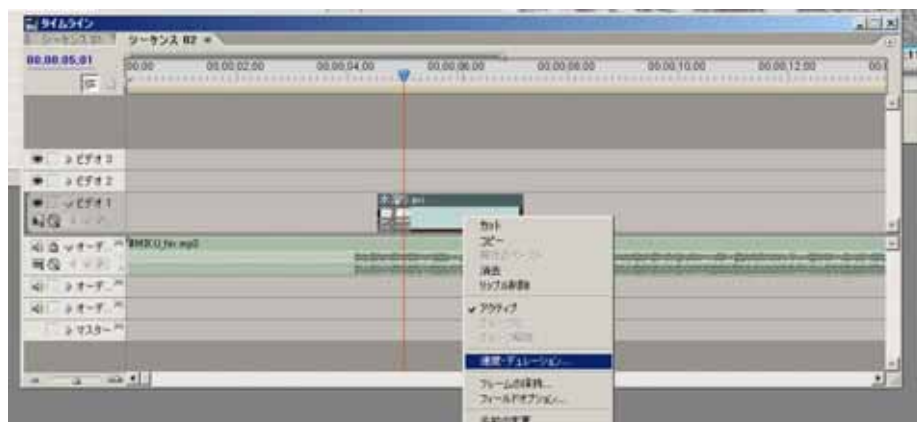


図4 速度の選択

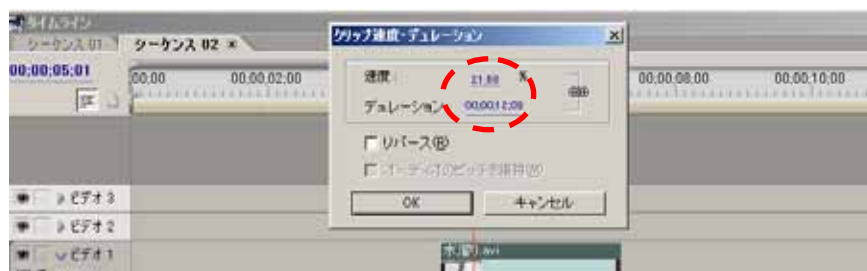


図5 速度の数値

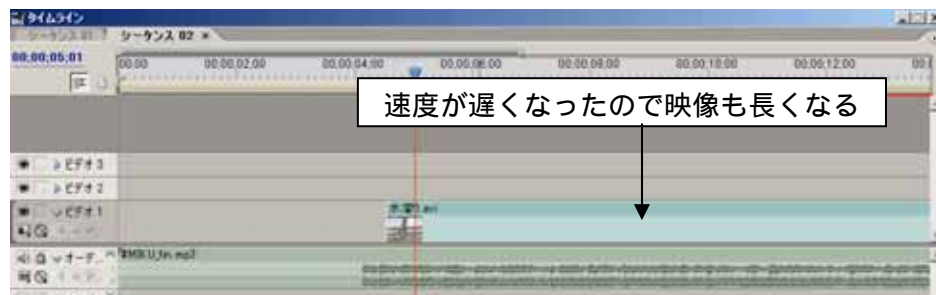


図6 速度を遅くした時の状態

* 編集方法「透明」について

映像を徐々に表示する時や消したい時に活躍する効果で、映像を組み合わせるのにも便利な機能である。今回、映像の切り替わり部分に、この効果を使った。このような効果は、楽曲に合うかどうかで決めるとよい。使い方は、まず のタイムライン上の使用する映像をクリックし、 のエフェクトコントロール画面にある不透明度の数値扱う。数値を小さくすると透明になる（図7参照）。

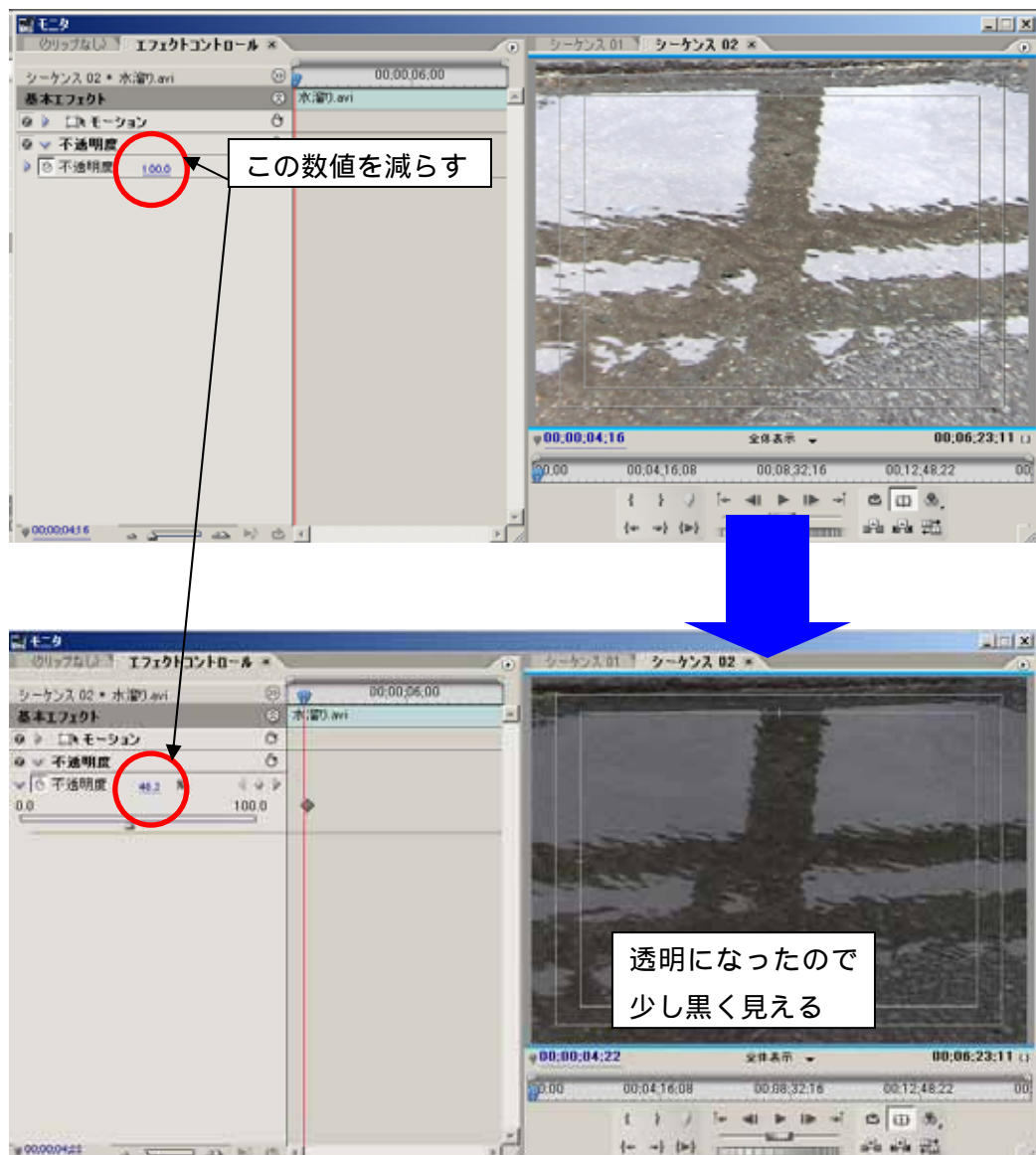


図7 透明の使い方

* 編集方法「色彩」について

単調な動画にならないように、カラーバランス効果を使って色彩を調整する。セピア色などに変化させる事など簡単にできる。今回は映像の明暗を付けたり、桜の花をより桜色に変化させたりした。

使い方は のプロジェクトのエフェクトをクリックし、ビデオエフェクトのカラーバランスを選択する（図8参照）。エフェクトの数値を変えると の映像が変化していく（図9参照）。画面を確認しながら数値を調整する。ここで用意されている様々な種類のエフェクトを試しながら編集していくと、一味違う映像ができるだろう。

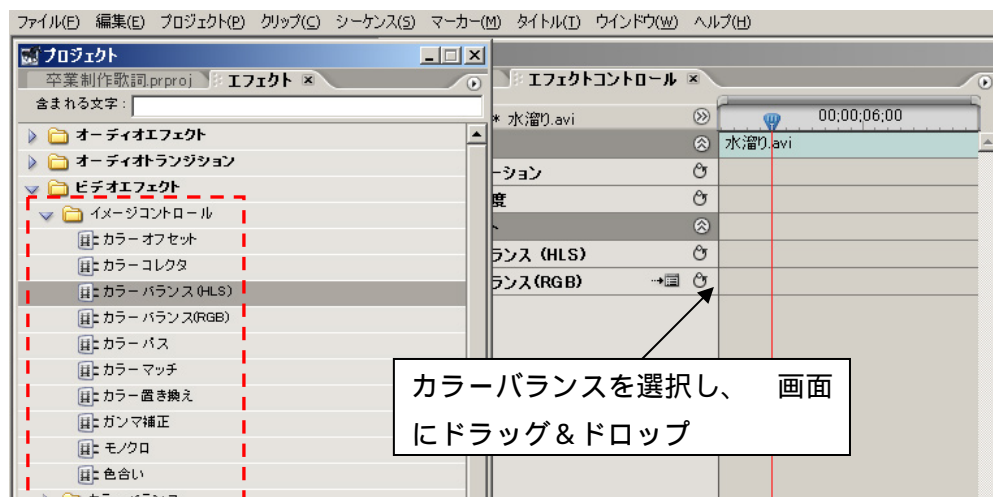


図8 カラーバランスの変更

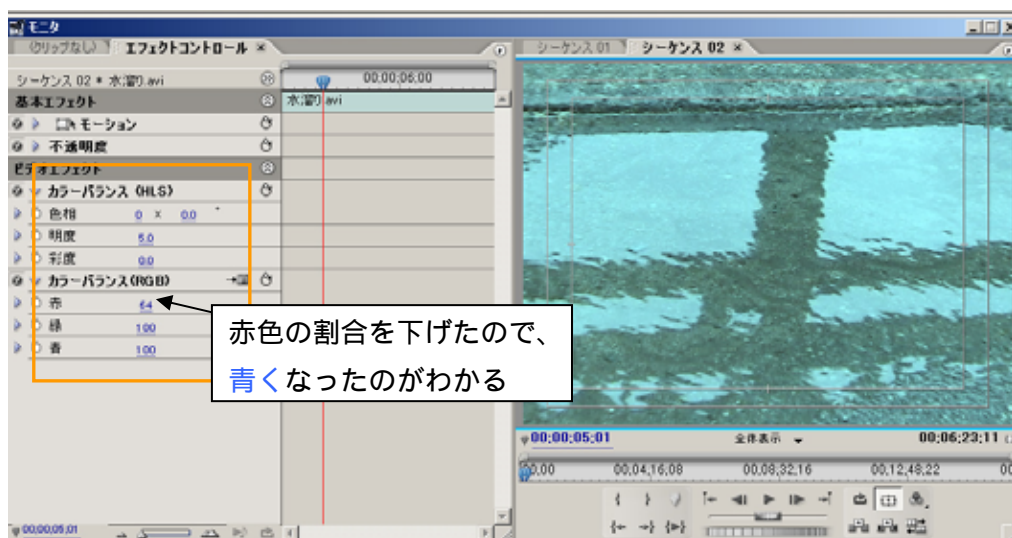


図9 エフェクトの確認

* 編集方法「テロップ」について

歌の入った楽曲のプロモーションビデオなので、曲に合わせて歌詞を表示した。文字も動画と同じように透明度や色彩などを変化させることができるので、雰囲気を作ることができる。文字が大きすぎるとカラオケのよう見えるため、フォントの種類とサイズには注意をした。この作業が編集の最終作業になる。

使い方は、メニューバーのファイルから「新規」「タイトル」を選択し、動画に合わせて歌詞の位置を決めていく。これはフレーズずつで作り、タイムラインに並べていく。



図 1 0 テロップを入れる作業画面

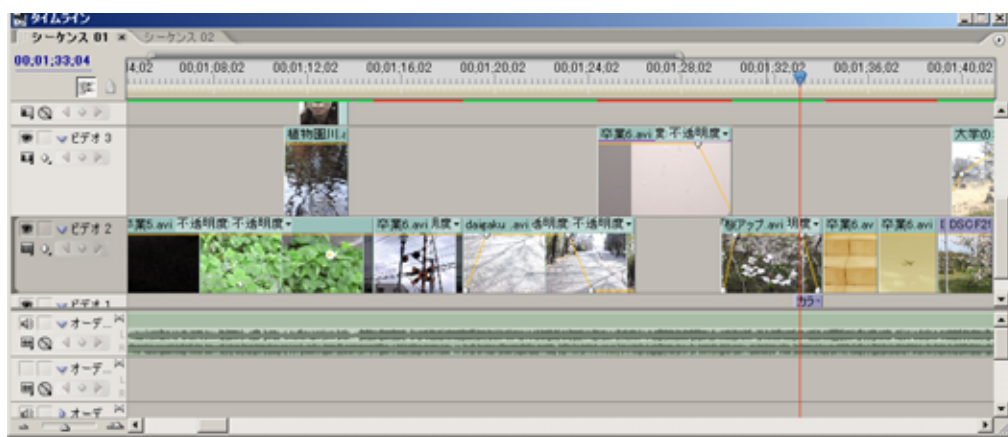


図 1 1 全ての作業を終えた画面

5. 書き出し作業

編集を終えたらムービーに書き出す。この作業は、映像を確認するために、編集作業の途中でも行った。編集していた時と書き出した後のムービーでイメージが違うことが多かったためである。ある程度形になったら、部分毎に書き出して確認することが大切だ。ただし、頻繁に行うと時間がかかるので注意したい。

使い方は、メニューバーのファイルから「書き出し」「ムービー」を選択し、ファイルの種類を指定する。

完成したファイルは、用途に合わせて DVD に焼いたりすると良い。

2.3 必要な技術と知識および機器

2.3.1 使用した機器・ソフトウェア

製作に使用した機器・ソフトウェアは、表1の通りである。

表1 使用した機器・ソフトウェア

機器・ソフトウェア名称	メーカー	備考
ビデオカメラ	日本ビクター	撮影作業
外付けハードディスク	BUFFALO	編集作業
Adobe Premiere Pro	Adobe	編集作業

* ビデオカメラ

今回、大学のカメラを借りて撮影した。私は普段の生活でビデオカメラを使用する機会が少なく、ほとんど触ることもなかったため、撮影する時に戸惑いを感じた。動画を作成するのに素材はとても重要なのでビデオカメラには慣れておいたほうが良い。固定して撮影する方法と、縦・横スイングして撮影する方法で、長時間テープを回しながら行った。

* 外付けハードディスク

編集した作品のバックアップや保存用に、外付けハードディスクは必須である。今回 USB インタフェースしか付いていない 250GB の外付けハードディスクを使用した。これが最大の失敗で、USB では動画を取り込む作業や編集する際に転送速度が著しく遅い事が発覚した。動画編集にスピードは命である。あまりにもスピードが遅すぎると作業の効率が悪くなるの

で、注意しなければならない。必ず確認しておいて欲しいのは「IEEE 1394」が接続できる端子だ。

* Adobe Premiere Pro

Premiere Pro は、映像編集ソフトで、映像キャプチャから編集、書き出しまで全て簡単に行える。使用方法を覚えれば、誰でもプロモーションビデオやオリジナル動画を作ることができる。

2.3.2 動画撮影・編集に必要な知識

今回の作業に必要な知識は以下の2つである。

◆ 撮影の知識

風景や人物を撮影する時の角度や効果的な場面を考えながら撮影しなければならない。また、三脚を使用し、手振れを抑えるなど基本的なことも抑えておきたい。そして、撮影には多くの時間をかけて行うことが大切だ。撮影の計画は、余裕を持って、事前にきちんと行ったほうがいいだろう。

◆ Premiere ソフトウェアの知識

動画を取り込み、編集するのに必ず必要な知識である。編集次第で作品も大きく変化していくので、基本的なツールは勿論、エフェクトも覚えていきたい。

これらの知識は経験しながら覚えていく部分が多いので、何回も撮影し、編集を繰り返すことで身につく。私は三脚をほとんど使わず撮影を行ったため、手振れが最初は大きかったが、次第に最小限に抑えることができた。編集作業でも段々と要領が良くなり、作業のスピードも上がっていった。経験することによってスキルアップが見込める。

第3章

作品の解説

3.1 「明日へ舞う桜(はな)」

今回の作品のタイトルは「明日へ舞う桜(はな)」である。これは、「春」そして「卒業」というテーマで決まった。詳細・楽曲については、光益聖人さんの卒業論文を参照願いたい。私の担当の部分は、プロモーションビデオである。動画の作成では、光益さんが作成した歌詞や曲のイメージを大切に、要望を受けながら、抽象的な映像で表現した。風景や人物を組み入れ、人物は特定されないように目から下半分を映した。

映像の構成として以下である。

- イ ン ト ロ : サビの歌詞と映像のイメージを合わせ、イントロにつないで盛り上がる部分を希望に繋がるように朝日を組み入れた。朝日からは明るい空に移り、希望に満ちている様子をイメージした。
- A メ ロ : 歌詞に映像を合わせる部分はきちんと合わせ、見ている人(主に4年生)に今までの思い出を思い出してもらえるように、大学の坂道や踏み切りの部分を入れてみた。また、明るい曲調に合わせ色彩も明るく、桜は美しく見えるように編集を行った。サビの部分は明るいイメージを残しながらも卒業していくことを感じさせるように学校の様子などを表した。
- B メ ロ : 曲調が変わる場面なので、少し色彩を抑えて哀愁が漂うイメージで編集を行った。空も夕焼け空を使用し、太陽が沈んでいく寂しい様子を表した。
- C メ ロ : ギターソロからさらに寂しいイメージを出すため、歌詞と曲に合わせ色彩は抑えた。段々と明るくなるよう変化をつけた。

エンディング：曲に合わせて色彩も明るく、希望に満ちている様子を空や桜でイメージした。曲と歌詞を映像で崩さないように心がけた。黒板に卒業のメッセージを取り入れ、前半のサビとリンクさせた。最後ピアノの音色はタイトルの桜で表した。

第4章

まとめ

今回プロモーションビデオを作成し、一人で撮影する大変さや、編集作業の難しさを改めて実感した。計画性がなかったため、撮影の時期が思い通りにいかず悔しい思いをした。そして編集の仕方に、問題や指摘された部分(手振れ・オリジナリティがない)も多々あり、課題は多く残った。

しかし、桜や人物や電車の風景など自分がイメージしていた通りに表現・編集できた部分もあり、映像を見た人から「泣きそうになった」「感動した」などの意見を聞くことができたのは嬉しかった。一番の目的が『人を楽しませる・感動させる』ことだったので、その感想を聞いて、少しでも達成できたと感じることができた。次はもっと良い作品が作りたと思った。

やはり作品は人に見てもらわなければ意味がない。そして見てもらうにはターゲットを明確にし、多くの人共感できるものを表現しながらも自分にしかできない表現も組み合わせることが大切だ。一人よがりの作品ではなく、観客が何を見たいのか考えなければならない。

これからインターネット上のサイトには多くのオリジナル作品が溢れると思う。ますますアップロードサイトはエンターテインメント作品で盛り上がるだろう。私たちはそういった作品の観客にも製作者にもなることが可能な時代だ。自分の作成した作品で未来を変えることができるかもしれない。この機会に製作者になって挑戦してみたいだろうか。

付録

参考文献

- * 『Adobe Premiere Pro スーパーリファレンス for Windows』阿部信行
(2004年)株式会社ソーテック社

素材

- * 『KSNET ケースネット』 <http://www.k-s-net.jp/index.htm>
- * 福岡国際大学 DMC サークル

撮影・編集協力

- * 千綿真理子
- * 淵脇康博(Premiere 指導)